

2021 年度（令和 3 度）

シラバス

理学療法学科 夜間部

履正社医療スポーツ専門学校

開講時期	4年生 昼・夜間部 前期		分野	基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	教育学		担当教員	若松 大輔		
実務内容			実務経験			
授業概要	教師の「教えること」や「学ぶこと」に関する基礎的知識を理解する。また、その知見を活かして、専門家としての理学療法士に関する認識を深める。					
達成目標	教師の諸活動に即して「教えること」と「学ぶこと」について学ぶために、実践記録や授業の映像を読み解き、議論する。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	教師像の歴史的展開と実践記録の文化		事後:復習		2
	2					
	3	「教えること」と「学ぶこと」の歴史		事後:復習		2
	4					
	5	実践記録①:現代的課題に立ち向かう教師たち I (震災と教育)		事前:実践記録を読む		2
	6					
	7	実践記録②:現代的課題に立ち向かう教師たち II (ジェンダーと教育)		事前:実践記録を読む		2
	8					
	9	実践記録③:確かな学力を育てる教師たち		事前:実践記録を読む		2
	10					
	11	実践記録④:集団のちからを育てる教師たち		事前:実践記録を読む		2
	12					
	13	実践記録⑤:子どもとともに生活を生きる教師たち		事前:実践記録を読む		2
	14					
	15	まとめ		事後:復習		2
授業方法	講義とグループワーク					
評価方法	1枚ポートフォリオ(40%)とレポート(60%)					
テキスト	特になし					
参考文献	田中耕治/編 『時代を拓いた教師たち』 日本標準					
履修上の注意事項	受講生のニーズに合わせて内容を変更する可能性がある。					

開講時期	4年生 昼・夜間部 前期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)
科目名	統計学		担当教員	辰巳 信平		
実務内容			実務経験			
授業概要	臨床研究では様々なデータの特徴や様相を解析するため、統計学の基礎知識が必須となる。本講義では研究成果を正しく解釈するための統計学的手法を学ぶ。					
達成目標	研究により得られたデータの尺度や特性値や指標を理解することができる。グラフや表の特徴を理解し、データに応じ適切な図表を作成することができる。推定及び統計学的仮説検定の基本的な考え方を習得し、具体的事例に応用することができる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	統計学の基礎	事前:確率・統計の既習内容(高校時含む)の復習		1	
	2	データの尺度・特性値・グラフ	事前:テキストの関連内容の予習 事後:グラフの作成		1	
	3	相関・相関係数	事前:テキストの関連内容の予習 事後:計算方法の確認		1	
	4	回帰・回帰直線	事前:テキストの関連内容の予習 事後:計算方法の確認		1	
	5	確率分布	事前:確率・統計の既習内容(高校時含む)の復習		1	
	6	記述統計学のまとめ・小テスト	事前:既習内容の総復習		1	
	7	推定と検定の基礎	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	8	差の検定(パラメトリック法)	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検定処理の確認		1	
	9	差の検定(ノンパラメトリック法)	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検定処理の確認		1	
	10	母平均の区間推定、母比率の区間推定	事前:テキストの関連内容の予習 事後:推定処理の確認		1	
	11	母平均の検定、母比率の検定	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検定処理の確認		1	
	12	差の検定のまとめ・小テスト	事前:既習内容の総復習		1	
	13	分割表とその検定	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検定処理の確認		1	
	14	独立性の検定	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検定処理の確認		1	
	15	統計解析の実際	事前:テキストの関連内容の予習		1	
授業方法	講義					
評価方法	学期末試験(50%)、授業内試験(40%)、授業内課題(10%)					
テキスト	石川朗/編 『15レクチャーシリーズ リハビリテーション 統計学』 中山書店					
参考文献						
履修上の注意事項	関数電卓もしくは関数電卓機能のあるスマートフォンアプリを用意すること。					

開講時期	4年生 昼・夜間部 前期	分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	保健医療福祉制度論	担当教員	竹元 志保		
実務内容	実務経験				
授業概要	社会保障制度は、憲法25条の生存権規定に基づいて我々の生活の根本を支える制度である。まずは現在の社会保障制度の体系を学び、各制度について大まかに理解することが求められる。				
達成目標	次の3点を目標とする。①各社会保険制度(医療保険・年金保険・介護保険・労働者災害補償保険、雇用保険)の概要について説明できる②社会保険以外の制度(社会手当等)について説明できる③諸外国の社会保障制度について理解し、我が国の社会保障制度の特徴について説明できる				
	学習内容等		事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	社会保障の概念・目的・機能・体系	事後:授業で学習した制度についてわかりやすくまとめること	1	
	2	社会保険の仕組み	事後:授業で学習した制度についてわかりやすくまとめること	1	
	3	医療保険制度の構造と体系①	事後:授業で学習した制度についてわかりやすくまとめること	1	
	4	医療保険制度の構造と体系②	事後:授業で学習した制度についてわかりやすくまとめること	1	
	5	保険診療の仕組み・公費負担制度	事後:授業で学習した制度についてわかりやすくまとめること	1	
	6	年金保険制度の概要	事後:授業で学習した制度についてわかりやすくまとめること	1	
	7	介護保険制度の概要①	事後:授業で学習した制度についてわかりやすくまとめること	1	
	8	介護保険制度の概要②	事後:授業で学習した制度についてわかりやすくまとめること	1	
	9	労働者保険制度の概要①	事後:授業で学習した制度についてわかりやすくまとめること	1	
	10	労働者保険制度の概要②	事後:授業で学習した制度についてわかりやすくまとめること	1	
	11	高齢者福祉の実際と課題	事後:授業で学習した制度についてわかりやすくまとめること	1	
	12	児童福祉の実際と課題	事後:授業で学習した制度についてわかりやすくまとめること	1	
	13	障害者福祉の実際と課題	事後:授業で学習した制度についてわかりやすくまとめること	1	
	14	公的扶助の実際と課題	事後:授業で学習した制度についてわかりやすくまとめること	1	
	15	今後の社会保障制度	事後:授業で学習した制度についてわかりやすくまとめること	1	
授業方法	基本的には講義形式で行うが、グループワークを取り入れながら理解を深る				
評価方法	平常点(30)と記述式の試験(70)で採点する				
テキスト	福田素生/他著 『系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉』 医学書院				
参考文献	適宜、必要な資料を配布する				
履修上の 注意事項	社会保障に関するニュースなどをみていただくと、より分かりやすく受講できると思うので、最新のニュースに関心をもってほしい				

開講時期	4年生 昼・夜間部 通年		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	卒業研究		担当教員	専任教員		
実務内容			実務経験			
実務内容						
授業概要	理学療法士の職業領域について探求し、理解を深める。					
達成目標	基礎医学系を理解し、説明することができる。 疾患学を理解し、説明することができる。 理学療法評価学・治療学を理解し、説明することができる。 医療の場で起こりえるリスクを理解し、リスクマネジメントについて説明できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション	事前:シラバスを熟読すること。		1	
	2 ～ 18	基礎医学系 (解剖学、生理学、運動学、病理学など) についてグループディスカッション	事前:グループディスカッションする内容を事前に確認する。 事後:日々理解したことをまとめる		各 2	
	19 ～ 36	疾患学 (脳血管障害、整形疾患、内科学、神経内科学など) についてグループディスカッション	事前:グループディスカッションする内容を事前に確認する。 事後:日々理解したことをまとめる		各 2	
	37 ～ 54	理学療法評価学・治療学 (評価学、運動療法、物理療法など) についてグループディスカッション	事前:グループディスカッションする内容を事前に確認する。 事後:日々理解したことをまとめる		各 2	
	55 ～ 72	医療の場で起こりえるリスク (感染対策、アクシデント、ヒヤリハットなど) についてグループディスカッション	事前:グループディスカッションする内容を事前に確認する。 事後:日々理解したことをまとめる		各 2	
	73 ～ 75	総まとめ、発表	事前:発表資料の準備 事後:理解したことをまとめる。		各 2	
授業方法	グループディスカッション、ポートフォリオ、発表					
評価方法	出席率、授業態度					
テキスト	なし					
参考文献						
履修上の 注意事項	自身で理解できるように補填すること。 理解できるとは、説明できることであると理解し学習すること。					

開講時期	4年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法総合治療学実習 I		担当教員	花崎 太一、他		
実務内容			実務経験			
授業概要	各疾患の臨床的課題を動画や写真等で提示し、知識を補充しながら評価・治療を解説していきます。					
達成目標	①各疾患に対する介入方法(評価・治療)を多く経験する ②リハビリテーションにおける多様性を理解する					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	運動器疾患 股関節・膝関節の評価・治療	事後:講義内容の復習		2	
	2	運動器疾患 足部・足関節・上肢(OT)の評価・治療	事後:講義内容の復習		2	
	3	障がい者スポーツの評価・治療	事後:講義内容の復習		2	
	4	スポーツ疾患の評価・治療	事後:講義内容の復習		2	
	5	呼吸器疾患の評価・治療	事後:講義内容の復習		2	
	6	呼吸器疾患の評価・治療	事後:講義内容の復習		2	
	7	循環器疾患の評価・治療	事後:講義内容の復習		2	
	8	循環器疾患の評価・治療	事後:講義内容の復習		2	
	9	脳血管疾患の評価・治療	事後:講義内容の復習		2	
	10	脳血管疾患の評価・治療	事後:講義内容の復習		2	
	11	糖尿病の評価・治療	事後:講義内容の復習		2	
	12	がん疾患の評価・治療	事後:講義内容の復習		2	
	13	リハ栄養の評価・治療	事後:講義内容の復習		2	
	14	摂食嚥下(ST)の評価・治療	事後:講義内容の復習		2	
	15	地域包括ケア病棟/退院支援	事後:講義内容の復習		2	
授業方法	講義					
評価方法	筆記試験					
テキスト	なし					
参考文献						
履修上の 注意事項						

開講時期	4年生 昼・夜間部 通年		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法総合治療学実習Ⅱ		担当教員 実務経験	専任教員		
実務内容						
授業概要	臨床実習に関するオリエンテーションと、OSCEにより臨床スキルの実力を確認、補填する。					
達成目標	自己の課題を臨床実習前後に見つめなおし、到達目標を理解した上で、臨床実習に臨むことができる。 実際の臨床場面を想定し、導入から評価の運動スキルや、自ら実施した結果から臨床推論を立てることができる。臨床推論に基づき、根拠を持った理学療法を実施できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	I期 実習前オリエンテーション 1回目	事前:実習要項・感染症ガイドラインを熟読する	1		
	2					
	3	I期 実習前オリエンテーション 2回目	事前:実習要項を熟読する	1		
	4	実習書類作成	事前:実習前レポート、実習報告書作成 事後:実習前レポート、実習報告書修正	2		
	5	I期 実習後オリエンテーション	事前:提出物準備	1		
	6	II期 実習前オリエンテーション	事前:実習要項を熟読する	1		
	7	実習書類作成	事前:実習報告書作成 事後:実習報告書修正	2		
	8	II期 実習後オリエンテーション	事前:提出物準備	1		
	9	実習レビュー作成 オリエンテーション	事後:実習レビュー作成	1		
	10	OSCEオリエンテーション	事後:症例情報を理解	2		
	11	OSCE(Objective Structured Clinical Examination)	事後:OSCEの振り返り	2		
	12	模擬症例を利用し、グループディスカッションにて臨床推論能力を高める。	事前:理学療法プロセスを確認 事後:グループ内容の復習	2		
	13					
	14					
	15					
授業方法	講義、OSCE、グループディスカッション					
評価方法	授業態度、出席状況					
テキスト	なし					
参考文献	なし					
履修上の注意事項	卒後に関与する重要な科目であることを理解し受講すること。					

開講時期	4年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法技術論		担当教員	石川 定		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)として臨床					
授業概要	理学療法の評価・治療の技術を一連の流れをもって考えることを学ぶ。代表的な疾患の特異的な評価・治療の技術を模擬実習にて経験する。応用的な技術について学ぶ。					
達成目標	1. 理学療法の評価・治療の技術を一連の流れをもって考える必要性が理解できる。 2. 代表的な疾患の特異的な評価・治療の技術を模倣できる。 3. 応用的な技術の存在を認識できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	腰痛の理学療法(マイオセラピー含む)	事前: 整形外科の復習 事後: マイオセラピー理論の復習			2
	2	椎間板ヘルニアの理学療法 (ストレッチング、腰痛体操含む)	事前: 整形外科の復習 事後: 理学療法治療学 I の復習			2
	3	リスクのない廃用症候群の動作介助 (ADL訓練含む)	事前: 姿勢と動作の復習 事後: 姿勢と動作の復習			2
	4	脳卒中片麻痺の理学療法: 急性期 (ROM訓練、ADL訓練含む)	事前: 脳卒中の復習 事後: 脳卒中片麻痺の理学療法の復習			2
	5	脳卒中片麻痺の理学療法: 回復期① (促通反復療法含む)	事前: 脳卒中片麻痺の理学療法の復習 事後: 促通反復療法の理論の復習			2
	6	脳卒中片麻痺の理学療法: 回復期② (促通反復療法含む)	事前: 脳卒中片麻痺の理学療法の復習			2
	7	小脳性失調症: 回復期 (PNF、促通反復療法含む)	事前: 小脳性失調症の復習			2
	8	THRの理学療法: 急性期 (ROM訓練、ADL訓練含む)	事前: 整形外科の復習 事後: 理学療法治療学 I の復習			2
	9	THRの理学療法: 回復期 (マッサージ、ADL訓練含む)	事前: 理学療法治療学 I の復習			2
	10	TKRの理学療法: 急性期、回復期	事前: 整形外科の復習 事後: 理学療法治療学 I の復習			2
	11	肩関節の理学療法 (マッサージ、ストレッチング含む)	事前: 整形外科の復習			2
	12	大腿骨遠位端骨折の理学療法 (免荷ADL含む)	事前: 整形外科の復習			2
	13	脊髄損傷の理学療法 (ADL訓練、ROM訓練、PNF含む)	事前: 脊髄損傷の復習 事後: 脊髄損傷のADLの復習			2
	14	呼吸器疾患の理学療法: 急性期 (リラクゼーション、胸郭可動域運動含む)	事前: 呼吸器疾患の復習 事後: 呼吸理学療法の復習			2
	15	呼吸器疾患の理学療法: 回復期 (呼吸介助法、体位排痰法含む)	事前: 呼吸理学療法の復習			2
授業方法	講義、動画視聴、実習					
評価方法	平常点、筆記試験					
テキスト	なし					
参考文献	過去の講義の教科書					
履修上の 注意事項	毎講義、実技があるので、動きやすい服装で参加のこと					

開講時期	4年生 昼・夜間部 通年		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法特論		担当教員	山中 善詞、他		
実務内容						
授業概要	理学療法の世界の中で使用されている、基本的な知識や最新のトピックスの紹介。					
達成目標	今後臨床にて役立つであろう、色々な知識や最新のトピックスを知る。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	ADLの実際(山中 善詞)		事後:授業の復習		1
	2			事後:授業の復習		1
	3			事後:授業の復習		1
	4	救急法(谷口 昌宏)		事後:授業の復習		1
	5			事後:授業の復習		1
	6			事後:授業の復習		1
	7	リスク管理(宮本 誠一郎)		事後:授業の復習		1
	8			事後:授業の復習		1
	9			事後:授業の復習		1
	10			事後:授業の復習		1
	11	車椅子・シーティング・クッション・移乗(安村 亮)		事後:授業の復習		1
	12			事後:授業の復習		1
	13			事後:授業の復習		1
	14			事後:授業の復習		1
	15	臨床心理学分野(安田 傑)		事後:授業の復習		1
授業方法	講義、実技					
評価方法	授業態度、出席状況					
テキスト	配布資料					
参考文献	随時配布する					
履修上の 注意事項						

開講時期	4年生 昼・夜間部 通年	分野	専門	単位(時間)	13(585)
科目名	臨床総合実習	担当教員	専任教員		
実務内容	実務経験				
授業概要	I・II期:病院又は診療所(理学療法業務)にて、各7週間の実習を行う。				
達成目標	ある程度の助言・指導の下に基本的な理学療法を遂行できる。 I期:ある程度の支援の下に基本的な理学療法を遂行できる。 II期:ある程度の援助の下に基本的な理学療法を遂行できる。				
授 業 計 画	<p>実習前レポートの作成 各自の行動目標を作成する。</p> <p>理学療法プロセス全般において、臨床的スキル(運動・認知)を実践する。 担当症例を通じて学ぶ場合がある。 指導者の診療に参加して学ぶ場合がある。 できるだけ多くの症例に関わる。 評価、治療の実施、再評価など、理学療法の流れを知る。</p> <p>実習日誌などで記録と報告を行う。</p> <p>日常業務の見学や、カンファレンスへの参加を通じて社会的スキルなどを学ぶ。</p> <p>感想文の作成</p> <p>実習報告書の作成 実習で見付かった自らの課題に対して、今後の学習計画報告を行う。</p>				
授業方法					
評価方法	実習指導者による評価や提出課題などにもとづき行う。				
テキスト	なし				
参考文献					
履修上の 注意事項	9割以上の出席が必要。				